拡大委員会記事

六月三十日夕、東京本郷において今秋大会運営に関する相談のための拡大委員会が開かれた。そのため、事務局よりアンケート回答の集計表をお知らせいただけたので、それをもとに討議が開始された。六月二十五日現在までの回答九三氏中、宿泊を伴う大会賛成六九、不賛成七、及び、場所については、鳴子四四、東京一七、その他四、という数字に基いて、次の如く確定した。

開催地　鳴子（但し現地調査を行うという案は取止める。宿舎等に関する詳細は東北大学所属の会員諸氏に一任）

開催期　十月七日及び八日両日（但し、六日夜までに現地に到着、七日朝より開会、八日夜まで継続、九日朝解散、そのため三泊二日のこと）

この開催月日については、社会学会大会の期日（同大会は十月十一日、十二日の両日、その前日である十日に理事会ありと判明）の前後を希望される方が多かったことに基いて前記の如く決定された。

右の大会への共同課題「村落共同体」に関し、研究報告者を八月十五日〆切で公募する。それにさきにあるように、次回アンケートないしは研究通信において一層周知徹底をはかる。

大会第二日目の午後には総括討論を行う。その司会者団は、有賀、木下、喜多野、小池（基之）、中村（吉治）、福武によって構成する。なお、司会者、発表者として確定した方々には出張の便宜のため、事務局より所属機関長にあてて「司会者（発表者）として派遣依頼」の公文書を出す。

参考まで、既に発表の申込みをいただいた方々は次の如くである。

有賀鉄治（北海道）

北海道における一部落の形成過程から見た一考察（仮題）

内容は、村落共同体を崩壊させる社会的要因を直接間接に受けながら、その過程の中で、しかも一部落が形成されて行く。既にあった共同組織とか規制が崩れるのではなく、資本主義体制の中に組入れられて一部落が形成されてゆく過程を、北海道標茶町クチョロ部落調査にもとづき考察する。（同氏端書より転載）

原　宏（八幡市）

対馬農村の共同体

佐賀井口と与良大山を事例として

以上両氏のほかにも前記の如く同様会員諸氏の報告申込みを期待する。申込みの〆切は八月十五日厳守とする。その際、簡単でもよいから内容を略記乞う。但し、大会予告号となる村研通信の発行にさきにあるように会発表者が充分なレジュメを事務局あて確実に提出して下さる様お願いする。その〆切については事務局より決定公示していただく。

次回刊行の村研通信に、東北大学のどなたかより（東北大学農学研究所及び東北大学教育学部社会学研究室竹内利美氏の御相談により）宿泊の条件、所要経費等の細目を御寄稿いただけるように連絡する。

当日の出席者は、有賀、小池（基之）、島崎、森岡、米村、中野（卓）の六名であった。

以上